

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年6月）の予測

発表日：2012年8月1日（水）

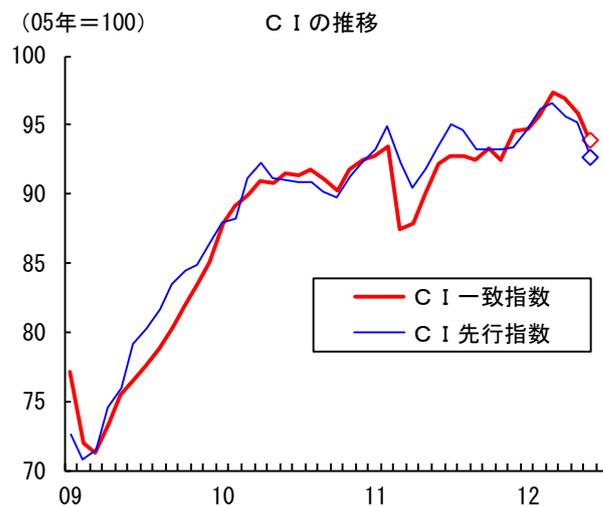
～基調判断は「足踏み」に下方修正される見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から8月6日に公表される2012年6月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲1.9ポイントが予想される。4月の同▲0.3ポイント、5月の同▲1.2ポイントに続き3ヶ月連続の低下であり、低下幅も大きい。6月の内訳では、有効求人倍率のみがプラス寄与で、残りの9系列はすべてマイナス寄与になった模様だ。生産関連指標の悪化が目立つほか、天候不順の影響から小売業販売などのマイナス寄与も大きい。この結果、内閣府によるC I一致指数の基調判断は、5月まで続いていた「改善」から「足踏み」に下方修正されるだろう。基調判断の下方修正は、大震災のあった2011年3月分以来のことになる。

また、C I先行指数も前月差▲2.5ポイントの低下が予想される。こちらも3ヶ月連続の低下である。内訳では、鉱工業生産財在庫率指数、新設住宅着工床面積、中小企業売上げ見通しD.I.などのマイナス寄与が大きい。

8月13日に公表される4-6月期のGDPでは、前期比年率+2%を超える成長率がコンセンサスとなっており、2012年前半の日本経済が高成長を達成したことが示される見込みである。だが、月次で公表されるC Iでは、3ヶ月連続の低下や基調判断下方修正など、景気にやや陰りが見え始めていることが示唆されている。生産関連指標での季節調整の歪みにより足元の減速が誇張され過ぎているきらいはあるが、警戒が必要な状況であることは間違いないだろう。



(注)2012年6月は第一生命経済研究所による予測値